

患者の立場に立って一緒に向き合う



整形外科 なかにし かずお
脊髄専門外来 中西一夫先生

今年の4月より倉敷平成病院で脊椎外来を担当しております。川崎医科大学 脊椎・災害整形外科の中西一夫と申します。

私は地元が倉敷で、病院からも近く、子どもの頃には病院周辺も庭のように真っ暗になるまで遊び回っていました。この度、地元の方々に恩返し出来ることを喜んでおります。

専門は脊椎脊髄外科です。また骨粗鬆症もライフワークとしております。趣味は、映画鑑賞と国内外を旅することです。映画はなかなか見る機会がありませんが、好きで集めたDVDは300本を超えています。今年の

3月まで勤務していた広島県の呉共済病院では、映画「海猿」で、実際に病院内で撮影が行われました。また、学会などで、国内だけでなく海外も飛びまわるのが好きで、去年はドイツ・フランス・デンマーク・タイ、今年是中国・オーストラリアに行きました。カリブ海のバハマで開催された国際学会では、映画「007 カジノロワイヤル」で撮影されたホテルに泊まったことが印象的でした。

さて、背骨は体を支えたり、動かしたり、神経を保護したり、家でいうところの大黒柱です。背骨がダメになると、家が傾くのと同じように日常生活に支障をきたします。さらに腰は「からだ：月」の「かなめ：要」と書くように、人類が二足歩行するうえで非常に重要です。腰痛は日本人に多く、一生のうちで約8割の日本人が、一度は腰痛を経験すると言われております。腰痛の原因はさまざまですが、多くは非特異的腰痛で、これは原因が特定できない腰痛のことを言い、腰痛を伴う腰椎疾患の85%を占めると言われています。残りが腰椎椎間板ヘルニアや脊柱管狭窄症などの腰痛に

なります。誰もが経験したくはない腰痛ですが、腰痛はなくてはならないアラームです。アラームは2種類あって、体を休めろというアラームと体に起こっている異常を知らせるアラームがあり、後者は見逃してはいけません。頸の「こり」や肩こりも同様です。それゆえ「診断」が重要になってきます。

「外科医」ですが、決して手術を優先するものではありません。私は、《手術は患者がいて初めて成立する。患者は決して「病変を外科的に治したい」のではない。手術という、出来れば避けたい手段をもってしても解消したい悩みがある》という患者の立場に立って、一緒に痛みに向き合っています。この難しい病気・病態に向き合い、立ち向かっていますが、それゆえ、脊椎外科医のみでは不可能です。他科の先生方やスタッフの皆さまの協力なしでは解決出来ません。

今後ともよろしくお願い致します。

中西先生は、第1・3・5火曜日の午前の整形外科 脊髄専門外来を担当されています。

Doctor's Eyes

ヘルプ
st
介
護
福
祉
士

楠
田
理
子